

News Letter

奈良教育大学 教職大学院 2012 vol.4(14)



2012年3月31日発行

奈良教育大学 大学院

教育学研究科 教職開発専攻

〒630-8528 奈良市高畑町

TEL&FAX 0742-27-9354

<http://www.nara-edu.ac.jp>

発行 奈良教育大学

教職大学院広報係

目次

1. 2011年度学位授与式
2. 修了生の学位研究報告書テーマ
3. 修了生の学びの振り返り

1 2011年度学位授与式



やわらかな春の日差しが降り注ぐ2012年3月23日、学位授与式が挙行されました。本学教職大学院修了生第3期生16名が巣立っていきました。慣れ親しんだ学び舎の下、ここでの成長と学びを振り返りながら、苦楽を共にした仲間と、お世話になった恩師との別れを惜しみ、涙する姿が印象的でした。この日の感激と初心を忘れずそれぞれの新しい環境でも力強く歩んでくれることを心から願っています。

2 修了生の学位研究報告書のテーマ

上谷 基博	学校組織における『協働体制』の在り方についての研究 ミドルリーダーとしての立場からの提案と実践	佐藤 幸代	中学校国語科における新しい古典教育の 実践的研究
岡田 浩和	教職大学院における学びの軌跡と課題 授業における児童とのコミュニケーション能力の 分析を含めて	嶋岡 浩三	高校生の自立意識を高める教材の研究
大西 真央	キャリアガイダンスを活用した教科授業の検討 家庭科におけるキャリア教育の授業開発	佃 拓也	子どもの探求力を培う社会科の授業 ディベート活動を中心とした単元の計画を通して
大原 麻友香	自ら気づき、課題を解決する能力の育成を目指した研究 書写の授業実践を通して	東畠 代次郎	理科と実生活をつなぎ、主体的に問題解決する力を 高める実践研究 理科が好きな子どもを育てるための研究
大山 貴史	子どもの「心の居場所」となる学級を目指して	平角 優季	児童の社会性の育成を促す教育実践力の 形成を目指して
大山 真	形成的評価のための信号カード活用法	松屋 光	実用性を意識したライティング活動の 実践への試み
小村 麻美子	生活環境に起因する問題を抱える 子ども達への発達援助	望月 朱生	外国語活動において多言語を取り扱う意義と成果 多言語教材の開発と実践
管野 咲	学校のニーズをふまえた博物館との 共働授業に関する研究	吉岡 久美	特別支援教育におけるキャリア教育の一考察 将来を見据えた指導としての社会的スキルの 有効性
		吉田 知弘	授業の力量形成に関する研究 指示・発問を中心に

3 修了生の学びの振り返り



上谷 基博

1年次、現場を離れての学生生活はまさしく毎日が新しい発見の連続でした。講義を通して新たな知見を数多く得ながら、これまでの実践に理論づけをすることができました。2年次、現場に戻っての課題研究では教職大学院が掲げる『理論と実践の往還』を常に意識しながら進めました。このような貴重な機会を与えていただいたことに深く感謝します。

本学教職大学院での大きな学びは、授業づくりや授業を振り返ることを通して、私自身を客観的に見ることができたことです。特に学校実践を通して、自身の授業を省察したことは、私にとっては大きな収穫であり、今後の進むべき方向を決定づける要因となりました。これらの経験をもとに、これからも学び続けていきたいと考えています。



岡田 浩和



大西 真央

今、院生室の空っぽになった自分の机をみて、「やり残したことはなかった。本当に充実した院生生活だった。」という思いでいっぱいです。2年前、私は「キャリア教育に自信がもてる教師になりたい」という目標をもち入学しました。目標は簡単に達成できるものではありませんでしたが、4月からは、開発したワークシートをもとに、精一杯授業に臨みたいです。

あっという間の2年間でしたが無事にこの教職大学院を修了することができました。学位研究報告書も先生方、また大学院の仲間たちにも支えられたからこそ完成させることができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。たくさんの人に支えられているという気持ちを忘れずに明日からも頑張りたいと思います。2年間ありがとうございました。

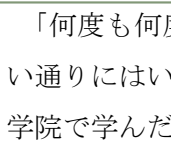


大原麻友香



大山 貴史

古都奈良にある“大学院という大きな山”は、頂上に至るまでの道のりは苦しく困難なものでした。しかし、頂上から見た景色は、かつて見たことのない素晴らしいものが広がっていました。それも全て連携協力校、大学院の先生方のおかげであり、同じ志を持った仲間たちがいたからです。これが私の財産です。夢の舞台へ出発します。



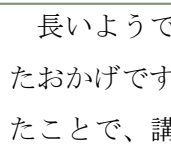
大山 真

「何度も何度も壁に当たりながら、方向修正をしてきた2年間でした。なかなか人生、思い通りにはいきませんが、もがいてでも前に進もうとすれば、何とかなるものです。教職大学院で学んだ様々な理論や広がったネットワークを、今後どう生かしていくかが、残り3分の1の教師生活の課題だと思っています。お世話になった方々に、心から感謝します。」



小村麻美子

私が本学教職大学院で目指したことは「カウンセラーとしての教師」となるための力量の向上です。どうすれば子どもたちの心を深く理解できるのか、理解したことをどう返していけばいいのかということを通して理論と実践の往還から学ぶことができました。4月からは、ここで学んだことを拠り所として、目の前の子どもたちと向き合っていきたいと思っています。



菅野 咲

長いようで短い3年間を過ごし、この度修了できましたのも、周りの皆様方に支えて頂いたおかげです。私は入学前、社会人として働いておりましたので、再度学生に戻る機会を得たことで、講義や実習がことのほか興味深く、貴重な経験となりました。学びの楽しさや、豊かさを子どもたちに伝えられるよう、向上心をもって成長していきたいと思っています。



佐藤 幸代

教職大学院で学んだことは数えきれませんが、一番の宝は、先生方と現職院生、そして学生のみなさんとの出会いです。教育への熱い心を持った仲間と共に過ごした時間はこれからの私を支え続けてくれることでしょう。ここでの学びをこれからの教職生活で生かし、奈良県の国語教育の発展に貢献できるよう努力いたします。本当にありがとうございました。

教諭ではなく180度違った学生という立場で、講義を受けたことやこれまでの教員生活の振り返りから、これまでの教育実践の再確認と新たな気づきがありました。

この教職大学院で学んだ多くのことを これからの教員生活で活かしていきたいと思っています。



嶋岡 浩三

私は、子どもたちにどうやって「探究力」を身につけさせられるのかを、授業や学級経営から学べたことが最大の成果だと思っています。3年間はあっという間でしたが、お世話になった本学教職大学院の先生方や、私を快く受け入れてくださった連携協力校の先生方に成長した姿を見せられるよう、子どもに視点をあてた教師を目指し探究し続けていきます。



佃 拓也



東島代次郎

教員としての資質や能力を高めたい、これまで研究してきた小学校理科教育を整理・発展させたいと考え、本学教職大学院に入学しました。主に「理科と実生活をつなぎ、主体的に問題解決する力を高める実践研究」をテーマに、理科が好きな子どもを育てるための研究を行いました。学ぶ楽しさと共に、教育の難しさ・素晴らしさを教えていただきました。

子どもと接する方法や子ども理解のための知識などについて教職大学院では多くのことを学びました。学校実践では、授業づくりについて連携協力校の先生方に多くのご指導を賜りました。今後は、「目の前にいる子どもたちに自分は何ができるのか」を自問しながら、日々学び、成長できるよう研鑽を積んでいく所存です。2年間ありがとうございました。



平角 優季



松屋 光

教職大学院で身に付けた力は、まさに「実践力」であったと2年間の学びを終えて感じています。発声法や間の取り方、板書の仕方など自分の課題をいつも追いつけていました。高等学校志望は私のみでしたが、経験豊かな先生方から高等学校の教育活動全般についてもご指導頂き、感謝しております。これからも高等学校教員として、精進していきます。

本教職大学院では、「小学校外国語活動において多言語を取り扱うことの意義と成果」について研究しました。この研究を通してたくさんの方と出会いました。これらの出会いを大切に、これからも実践し、研究し続けていきたいと思えます。教職大学院の先生方、連携協力校の先生方、4年間で出会った院生の皆さま、本当にありがとうございました。



望月 未生



吉岡 久美

素晴らしい人との出会いを与えてもらった三年間を修了するに当たり、教職大学院の先生方、連携協力校の先生方、ともに学び合えた院生仲間へ感謝しています。ここで培った理論と実践を今後微力ながら子どもたちの将来に関わらせてもらう中で、生かしていきたいと思えます。数々の貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

2年間の教職大学院における学びは、私の今後の教師生活にとってかけがえのない財産になるものと確信しています。1回生で自分自身の授業における問題点を発見し、2回生で解決していくことで大きく成長したと実感しています。また、課題研究及び講義のみならず、先生方や院生の仲間と過ごした時間も貴重でした。本当にありがとうございました。



吉田 知弘

あしがき 修了生の皆さん、修了おめでとうございました。今年の冬は例年になく寒い日が続きました。本学キャンパスの桜の開花も昨年より一週間程度の遅れが予想されています。桜の花芽は夏に形成され、その後、秋から休眠状態に入り、一定期間、冬の寒さにさらされることにより休眠打破し、春先の気温上昇とともに一気に開花するそうです。また、その寒さが厳しければ厳しいほど美しい花を咲かせるとも言います。吹きすさぶ北風の中、寒さにじっと耐え、つぼみを守っている桜の姿に、これからの皆さんを重ね合わせる事が出来るでしょう。今後の教員生活において、厳しく苦しい状況にあっても耐え、やらなければならないことに対し真正面から向き合う地道な実践を続けることを忘れないでください。このことは、教員として大きく成長するための大切な要件の一つであると思えます。皆さんが自分なりの美しい花を咲かせてくれることを願っています。(文責 小谷)